

口頭発表「大阪府での教育委員会と獣医師会の協力体制と活動について」

—府内160の会員の動物病院の支援体制—

会亀昭夫



1 はじめに

近年の青少年白書によれば、現代の子供の特徴として、①自己中心的である、②コミュニケーションがうまくとれない、③命についての理解が乏しい、などと報告されている。

それをうけて、文部科学省を中心に国として、生物教育や道徳教育などを目的に動物飼育を奨励しているが、有意義かつ適切に飼育されていない事例が多く、事態改善に向けて全国各地で獣医師が学校での動物飼育に係わり、教育委員会が獣医師と連携して飼育支援事業を行う自治体が増加している。

大阪府の幼稚園や小学校においても、動物愛護の精神になじまないような飼育状況が多く見られ、大阪府獣医師会としても何らかの取り組みが必要なのではとの考えから、2003年10月に、学校飼育動物担当委員会とそれに付随する小委員会を立ち上げた。

2 獣医師個人の対応の調査から

2004年3月には学校飼育動物と獣医師とのかわりについて、現状把握と今後の委員会活動の方向性を考えるために、開業部会員296名にアンケート調査をおこなったところ、222名(75%)の会員から回答を得、これを集計し検討と考察を加えて同年末発行の会報に発表した。

そのアンケートの結果を見ると会員の多くは学校飼育動物に係わることの必要性を感じているが、どのように対処すればよいのか分からない。個人的にアプローチしても学校との交流が保てない等、具体策に戸惑っている様子が窺える。このような状況から、後述のマニュアル

のようなものの作成、配布を望んでいる会員が多いように感じる。また、具体的な案を持つ会員の意見の集積も必要であり、今後活かしていきたいと考えている。

アンケートのまとめとして、会員の63%が何らかの形で学校飼育動物に関わったことがあり、その大半が善意で個人的に奉仕しているような状態であるため、単発で継続性に乏しいものであった。それを大阪府獣医師会の一つの事業と認識されるような域まで皆で到達したいものである。そのために、獣医師会としてはトップダウン方式で、行政や教育委員会また学校の代表である校長・教頭あるいは飼育担当の先生方に対しては意識改革を促しながら、交流を深めていかなければならないと考えている。更にその交流の輪の中に、一般の教員の方々やPTAの保護者にも加わっていただければ、よりよい方向性を見出せるのではないだろうか。

3 学校支援の方針決定と会員の協力

これからの取り組み方としては、大阪府獣医師会が中核となり支部または市町村の単位で必要性和熱意を持った会員が集結して、動物福祉に充分配慮された学校飼育の実現と、動物介在教育への協力体制を作りあげたいと考えている。

近年、全国で獣医師と連携して飼育支援体制をとっている都道府県、政令都市も少しずつ増え、なんらかの形で獣医師が関わっている市町村自治体は、過半数を超えている。また、学校獣医師制度を条例で定めた市町村や、臨時職員として公務員待遇の学校獣医師制度を始めた自治体も報告されている。

今後、動物介在教育支援に獣医師が関与していく必要性のより深い理解のためには、①「新学習指導要領の解説生活編に、学校飼育動物に関して地域の獣医師と連携することが望ましい」となっていることの周知徹底をはかるべきである。②文部科学省のHPにある「学校における望ましい動物飼育のあり方」や全国学校飼育研究会編集の、新学習指導要領に沿ったマニュアルを活用し単なる飼育指導や傷病の治療だけでなく、負担のかからない飼育・楽しい飼育・動物がかわいいと思える飼育(心の教育・子どもも動

物も幸せな飼育)を行える方法を提案し、獣医師が動物介在教育に協力できることを教育関係者にアピールしていくことが大切である。具体的には、こどもの心を揺さぶるほどの体験を与えてくれる動物との深い交流は、こどもたちが動物を「かわいい」「大切」と思って初めて得られるものであり、まず飼育に関わる教員の方々に動物を好きになる「ゆとり」が生まれるような飼育を提案しなければならない。われわれ獣医師は、このようなゆとりある飼育、「情の通じる飼育」が教育現場で実現するよう、学校に出向き、飼育法や衛生管理法のほか飼育種の選定や飼育数の限定、管理しやすい飼育舎の工夫などさまざまな協力と助言をすべきである。そして、希望があればこどもたちに講話をし、ゲストティーチャー方式で授業の手伝いをするなどして、動物とこどもたちのふれあいを助ける存在を目指したい。

このような飼育や動物介在教育を学校で実現させるための補佐役としては、私たち獣医師が適任であると考え、2006年10月より大阪府教育委員会と学校飼育動物の飼育環境をよりよくするための連携体制をとっている。

＜府教育委員会と獣医師会の連携内容＞

- ①学校飼育動物に関する無料相談（飼育法全般・健康に関する相談）
- ②診察および治療を廉価で行なう。
- ③特別非常勤講師として要請があれば学校に出向く。（ゲストティーチャーとして）

以上のような連携内容で、各市町村の学校飼育動物担当委員を通じて協力獣医師を募ったところ、約160名の開業部会員の協力申し出を得られた。

大阪府獣医師会としては、行政・教育委員会・学校からいつどんな要請があっても対処できるだけの体制を整えているところである。

（現在フリーメールアドレスで教育委員会・学校向けの窓口を開いている）

Fujyu-doubutu@mail.goo.ne.jp

4 学校飼育動物・動物介在教育支援事業の経過

(1) 教職員研修会への講師派遣

○2006年5・6月

吹田市某私立幼稚園保育士研修会「うさぎの飼育および園の動物飼育の考え方について」

派遣講師 美濃部五三男

○2006年7月26日 東大阪市教育委員会主催教員研修会「学校園における望ましい動物飼育のあり方」 派遣講師 寺田芳徳 長内秀樹

○2006年8月23日 大阪府教育センター主催教員研修会「飼育を通じた心の教育」

派遣講師 清水かおり

○2006年12月7日 高槻市教育センター主催教員研修会「冬の動物飼育について」

派遣講師 清水かおり

○2007年 2月 8日 和泉市教育委員会主催教員研修会「学校飼育動物について」

派遣講師

北新秀一 佐伯 潤 中西 等 山野雅代

(2) 府内各市町村の小学校の授業への講師派遣

○吹田市 14回 (2006/4～2007/3)

○池田市 1回 (2006/9)

○伊丹市 1回 (2007/1)

○東大阪市 7回 (2006/4～2007/3)

○大阪狭山市 1回 (2006/11)

○和泉市 2回 (2006/12)

○貝塚市 1回 (2006/12)

(3) 動物愛護フェスティバルへの出展

2004年より3年連続で学校飼育動物の有用性を、ブース展示にて訴えている。

4 大阪府獣医師会学校飼育動物担当委員会の理念

学校飼育動物の存在が、子供たちにとって命の大切さを理解するのに役立つ存在であり命をはぐくむ心を養えるものであるように努める。また、飼育だけでなく学校教育に協力することにより子供の心のケアを応援する。

更に、正しい人と動物のあり方、人獣共通感染症、動物の福祉、人と動物の絆を子供たちに伝え、正しい動物愛護の考え方を啓発し日本の将来に貢献する。

5 終わりに

動物飼育あるいは人と動物のかかわり方については、いろいろな立場の人や組織があり、それぞれに考え方や取り組み方が違っており、お互いに否定するのではなくお互いに認め合う方向でありたい。認め合うところからお互いの良いところを取り入れて子供たちのためにより良い動物飼育を構築していきたいと考えている。

豊かな心の形成を促すための要素としては、人と人のふれあい・動物とのふれあい・読書・映画鑑賞・音楽など他にもいろいろ考えられる。

しかし、それと出会う時期が大事であって、幼少期から小学校4年生ぐらいまでは、動物とのふれあい・その世話・飼育が、豊かな心を形作

る基礎となるものを心の中に芽生えさせてくれるのではないだろうか。その心の基礎ができた後に人とふれあい・読書をし・映画を見・音楽を聴いて初めて心は豊かになれるであろうし、その心の基礎が無ければ豊かな心は育たない。その心の基礎の形成に一番役立つのは動物飼育だと筆者は確信している。

戦後60数年かけて日本人が失ってしまった心を、もう一度取り戻すためには同じぐらいの年数すなわち50～60年かかるかもしれない。動物飼育が良いとしてもその効果はわかりづらく、1月のお茶の水女子大での中島さんの発表のよう

に、効果を数値化したものがどんどん出てくれば良いが、それも一朝一夕にはいかない。けれども、積み木を一つ一つ積み上げるように根気強く、子供たちの豊かな心のためにと願ってたくさんの人たちが諦めずにがんばっておられます。

わたしたち大阪府獣医師会も皆様方とともに歩んでまいりたいと存じますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

((社)大阪府獣医師会)

【質疑応答】

<中川>

大阪では管理職の研修について、どのような状況ですか。

<会亀>

まだ手をつけておりませんし、実施しているということも聞いたこともありません。

<中川>

このほど、日本獣医師会が提言としてまとめた中に、飼育活動の有用性を認識して、カリキュラムに位置づけていただきたいということと、管理職を含めた教員研修をしてほしいということ。それから学校をサポートするために学校獣医師制度を確立してほしいということ盛り込んでいます。

このことについて、教育委員会の反応はいかがだったか教えていただければと思います。

<会亀>

今私どもと連携を組もうとしている教育委員会の担当の先生は非常に熱心で、これから少しずつ進んでいくと思います。しかし、学校の先生だけを対象にしていたのでは先に大きく進みませんし、先生がおっしゃるとおり管理職を巻き込んだものにしていきたいと思っていますが、教育委員会と一緒にそれが可能であるかまだわ

からないところです。

<中川>

連携とおっしゃいましたが、行政からの予算の手当はどのようですか。

<会亀>

今のところございません。

<大阪・中川>

大阪市獣医師会と大阪市教育委員会との関係を会場の中でご存じの方がいらっしゃいましたら教えていただきたいと思います。

<大阪・松村>

大阪市の生活衛生担当です。

大阪市では、動物愛護推進協議会というのをつくっています。その中で、獣医師会と教育委員会が話し合っ、学校飼育動物のことを進めているところです。

<中川>

少し補足させていただきますが、大阪市では、生活衛生課の方が主になっていて、動物愛護行政の延長のような形になってしまっていて、教育委員会はそちらの方にお任せしている状況となっています。だから、本当は今日も来ていただきたかったのですが、お忙しいのでご無理は願えなかったというところです。

